

第十九回 大文字送り火能 蠟燭能

# 善知鳥

金剛永謹



令和4年8月16日(火)

午後5時30分 開演(4時30分開場)

[会場] 金剛能楽堂

【主催】公益財団法人 金剛能楽堂財団  
【後援】古典の日推進委員会



# 第十九回 大文字送り火能 蠟燭能

令和四年八月十六日(火) 午後五時半始

於 金剛能楽堂

解説 種田道一

蠟燭能

小牧真之  
廣田泰能

金剛永謹

善知鳥

福王和幸

谷口正壽  
曾和鼓堂

杉市和

間 茂山千三郎

後見

豊嶋幸洋  
廣田幸稔  
惣明貞助

地謡

山田伊純  
宇高竜成  
豊嶋晃嗣  
宇高德成

今井克紀  
種田道一  
今井清隆  
金剛龍謹

## ◆善知鳥(うとう)

— あらすじ —

諸国一見の僧が陸奥国外の浜へ行く途中、立山を訪れると一人の老人が現れる。老人は昨年亡くなった外の浜の獵師の亡霊と名乗り、妻子への伝言を僧に頼むと、証拠のために着ている麻衣の片袖をほどいて渡し、消え失せる。

外の浜に着いた僧は、獵師の妻子を訪ね、形見の衣と片袖を合わせると正しく合うので、獵師の伝言に従い蓑笠を手向けて供養する。するとそこへ獵師の亡霊が現れて妻子を懐かしむが、この世で犯した罪障の雲に隔てられて近づくことが出来ず、生前に善知鳥をはじめ数多くの鳥獣を殺した報いで苦しんでいることを明らかにする。そして、地獄で化鳥に変じた善知鳥から責め苦を与えられる様子を見せ、僧に回向を頼みつつ再び消えてゆくのだった。

善知鳥は親子の情愛が深く、親鳥が「うとう」と呼びかけると幼鳥が「やすかた」と鳴くように聞こえるという。この習性を利用して、鳴きまねで善知鳥を捕獲する獵を行い生計を立てていた獵師。やむにやまれぬ人間の業にまつわる悲哀と、地獄の苦しみの凄惨さが蠟燭の灯りに浮かび上がる。

### お申込み・お問合せ

#### 金剛能楽堂

〒602-0912 京都市上京区烏丸通中立売上ル  
TEL.075-441-7222 FAX.075-451-1008  
http://www.kongou-net.com  
[料金] (一般)5,000円 (学生)3,000円

### 交通アクセス



駐車場はございません。

京都御苑に有料駐車場あり

- 地下鉄烏丸線「今出川」駅下車6番出口より南へ徒歩5分
- 市バス「烏丸今出川」停留所より南へ徒歩5分



今後のコロナウイルス感染状況により、日時や出演者等に変更が生じる場合がございますのでご了承ください。